（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390100388		
法人名	社会福祉法人山清福祉会		
事業所名	グループホームほほ笑み		
所在地	熊本県熊本市東区戸島西5丁目5番26号		
自己評価作成日	平成25年10月21日	評価結果市町村受理日	平成26年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41―5
訪問調査日	平成25年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

各居室は庭への出入りが自由な掃き出し窓を採用し、共有空間の天窓や菜園と相まって開放感のある建物となっている。
また、昨年度は2名の介護職員が産休及び育休を取得したり、事業所が独自に定めたスキルアップ支援制度によって1名の介護職員が介護支援専門員資格を取得したりと、従業員が継続して働きやすい就労環境の整備に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

＊　管理者の強い思いで事業所独自の「スキルアップ支援制度」を設け、職員の資格取得・資質向上のため、働き方・費用の面で支援している。平成19年の開設当初からの職員も数人おり、働きやすい環境整備への努力が実っているように伺える。
＊　室内は床暖房や二重ガラス、スプリンクラーや太陽光発電を設え、24時間モニタリングカメラを設置するなど、省エネや事故、災害に対する備えと、リスク管理への意識が高い施設であると思われた。
＊　職員が観察した利用者の暮らしぶりや、健康状態は、毎月、家族に手紙で丁寧に報告され、利用者と家族、ホームをつないでいる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に「環境・愛情・清潔・安全」への思いを込めて管理者と職員とで作成した理念があり、定期的な職員会議の中で、理念の共有を図っている。	ホーム名「ほほ笑み」のロゴマークを「緑・ピンク・ブルー・黄」で表示し、理念に掲げる「環境・愛情・清潔・安全」を表現している。職員がロゴマークに接する度に、理念を確認しケアの拠り所として実践に繋げるよう、職員会議等で、共有を図る取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加したり、青少協の会議や地域住民の会合に場所を提供している。また、地域の中学校や保育園との交流事業も実施している。	年2回の地域清掃活動には職員がホームのユニフォーム着て参加し、自治会にも加盟して回覧板を回す等、地域参加に努めている。また、毎月実施される「ささえりあ」主催の認知症介護家族の集まりに場所を提供したり、敬老の日には長嶺中学の生徒訪問を受けて利用者と触れ合いの機会を作る等交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の認知症介護家族の会合場所として、当事業所の和室が活用されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故の報告や入退居の状況報告を主な議題として開催している。	運営推進会議は、町づくりの会会長・老人連合会会長・ささえりあ・家族等の参加を得て開催。利用者の入退所や職員の異動・防災対策等が報告されている。尚、火災訓練実施の様子は運営委員に公開し、その後の会議で活発に意見交換を行い、改善に繋げている。	地域交流・災害時の協力体制作り等も、委員会で話し合うことで委員の更なる支援が得られると期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センターの参加、事故発生時の連携はもちろん、必要に応じて市の担当者とも報告・連絡・相談・確認の作業を行っており、市町村と共にサービス向上に取り組む体制を整えている。	日頃の報告に加え、GH管理者団体のリーダーとして、同業者の抱える疑問等を市担当者へ問い合わせ、確認を行うなど、業界と行政担当者との連携強化を図っており、協力関係構築に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束に関するマニュアル」の中で介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を明記し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	職員が拘束に関して戸惑いや疑問を持つ際は、常にマニュアルに立ち戻ることを促している。ベッド柵を使用しない工夫や、移動を抑制せずに転倒防止を行うアイディアなど、代替案を探し、工夫をすることを指導して、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	特になし		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特になし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入所の前に一度内容の説明を行い、入所日に再度の説明を行っている。これは、理解と納得を得られるよう充分な時間を確保し、一方的な説明にならないよう留意しているためである。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	国保連の苦情対応ポスターを事業所内に掲示し、また、管理者も利用者の居室を訪ねて現状の把握に努めている。	毎月、担当職員が入所者の健康状態と暮らしぶりなどを手紙で家族に報告している。遠距離であっても・面会が少なくてもコミュニケーションが途絶えることなく利用者と家族が近く感じられ、家族も意見が出しやすい環境づくりに配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の資質を高めるキャリアアップ制度を設け、資格取得のための休暇や金銭の支援体制を設けている。管理者は、職員が悩みや問題を相談しやすい環境を整備するため、管理者用の個室を作らずオープンにし、職員の誕生日はプレゼントを用意するなど、物理的、精神的な配慮に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善交付金等の制度の活用はもとより、各自が向上心を持って働けるよう社会保険労務士に専門的な指導を仰ぎながら、職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自のスキルアップ支援制度を策定し、介護に関する資格取得を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会の出席だけでなく、独自に情報交換に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	主な利用サービスの担当者との情報交換や三者面談、ご家族も交えた四者会談を駆使して、ニーズの掘り起こしと把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主な利用サービスの担当者との情報交換や三者面談、ご家族も交えた四者会談を駆使して、ニーズの掘り起こしと把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の見学時や利用申請書提出時に面談の時間を設け、現状とニーズの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物の取り込み、食器洗い等の日常の家事を一緒に行い、本人が介護される一方の立場におかれないよう留意している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特になし		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特になし	入所者が隣接するデイサービスを利用し、昔馴染みの人との出会いの機会を大切に支援している。また、毎月職員が出す家族への手紙で、家族と利用者の継続的な関係を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って、トラブルの事前回避に努め、相互理解の促進を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所後にも、病院で行われるカンファレンスに参加して継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによって意向や希望を把握している。	介護記録に入所者の「発語」「何をしていたのか、経過・内容」「職員の判断・考察」等を記述し、事実とその対応の把握や、振り返りの参考としている。また、入所者の「ことば」から思いを把握する取り組みが見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集によって、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによって一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の情報や家族からの情報を元に、概ね1ヶ月程度の状況把握期間を経て介護計画を作成している。	ケアプランに連動した介護記録を付け、プラン見直しの際は、介護主任の意見と日々の介護記録等を参考に、入所者の現状に即した介護計画の作成を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特になし		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や老人会、地元の中学校を招待した行事を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週間に一度の協力医療機関受診を基本としているが、以前に受診していた病院や専門医等の受診希望があれば、当事業所が通院に係るすべてを行う形で支援している。	現在8人の入所者が協力医療機関の往診を受け、1人は以前からのかかりつけ医の受診となっている。通院の際は、職員が付き添い支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特になし		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院で開催されるカンファレンスには概ね出席しており、退院に向けた調整には積極的に関わっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対しては、医療機関との連携に関する一般的な方針の説明を行っている。	医療的な行為が必要な状態での継続的な利用は難しく、ホームでできる支援の範囲を家族に説明している。しかし、30日以上の入院が必要で止む無く退所する場合でも、快復後、希望があれば優先的に再入所を受け入れる姿勢であることを契約書に謳い、安心して医療を受けられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特になし		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を実施しており、昼夜の非常時に備えている。	平成19年の開設時からスプリンクラーを設置し、各居室からウッドデッキに出られる開放的な設計となっており、災害に備える意識は高く保たれている。	夜間災害時は、地域の協力体制が不可欠と思われ、地域の協力を得るための関係づくりが必要と思われる。運営推進委員会で話し合い、改善に向けた取り組みを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	テキストによる内部研修の機会に、人格の尊重とプライバシーについての教育を徹底している。	トイレ介助・おむつ交換を行う時の羞恥心への配慮、個人名が書かれた日々の記録、おむつの管理のあり方等、具体的な例で研修を実施し、入所者の尊厳とプライバシーを損ねないケアの実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等大まかなスケジュールは用意しているが、レクレーション参加や日中の過ごし方、就寝時間などは各入居者のペースに合わせて支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は原則的に各利用者が自由に選択したものを着用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や食器洗い・お茶汲みなどを入居者と一緒に行っている。	ごはんと味噌汁をホームで用意し、主菜・副菜は、調理された冷凍食品を解凍・温めて提供している。忘年会・敬老の日は、仕出しを取り寄せたり、年に2回の「どんぶりの日」は、天丼・かつ丼など好きなどんぶりの出前で気分転換を行っている。	冷凍食では味わうことが難しい季節の野菜・果物・郷土の食品等も取り入れることで、季節を感じ、思い出話や、食べたい物など話題も広がり、食事を楽しむ支援にも繋がると期待される。日当たりの良いウッドデッキで昼食やお茶を楽しむなど、気分転換の支援も期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特になし		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄や歯磨きの部分的な介助など、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて時間による誘導やポータブルトイレを活用などの手段を講じ、排泄の自立にむけた支援を行っている。	介護記録等を参考に、その人の排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援が実施されている。自室からトイレまでの距離が遠い入所者には、夜間だけポータブルトイレを設置し排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特になし		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望に応じた入浴支援を行っている。 可動式の浴槽やリフトの活用により、多様な入居者が安全で快適に入浴できるようになっている。	週に2日の入浴を基本とし、希望や状況に応じて対応している。脱衣所は床暖房があり、浴室も暖房され、温かく・快適な浴室環境となっている。現在リフト活用による入浴は4人おり、職員の負担軽減となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方は基本的に自由である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用しており、更に薬の内容と効用に関する資料を利用者台帳に加えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器洗いなど、能力に応じた役割を分担したり、事業所内にて猫を飼育することで日常生活に楽しみと変化を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩をレクレーションの一環として実施している。	日常は、施設の周辺を散歩したり、30分程のドライブに出かけている。健軍神社への初詣・お花見が毎年の主な外出となっている。	入所者が戸外で気持ちよく過ごせ、季節を感じ、五感を刺激する機会への支援も期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特になし		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特になし		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けになった天井や天窓、そして床暖房など、採光や換気に配慮した設計に加え、室内には観葉植物を飾ってある。また、和室やソファーなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随所に確保してある。	全館床暖房で、広いリビングも暖かく、快適な空間となっている。紅葉の展示物や飾り物がかけられ、さりげなく季節を知らせている。ホームの名前から付けられた愛猫の「笑みちゃん」がリビングの片隅で昼寝したり、闊歩したり、入所者に溶け込んでおり、穏やかな雰囲気となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファーなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随所に確保してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のある居室やフローリングの居室があり、掃き出し窓から中庭・ウッドデッキ・菜園へ直接出られるように工夫されている。各居室には、家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものが持ち込まれている。	居室づくりは、本人と家族の自由となっている。冷蔵庫・机といす・沢山の花等が所狭しと置かれた部屋、ベッドだけのシンプルな部屋と、それぞれの思いによる部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人間関係や趣味と合わせて、能力や理解力も考慮して食堂の席や行事の際のグループ分けなどを工夫し、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように努めている。		